

やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

茶粥の起源説の一つとして、平景清が東大寺の大仏落慶供養に上洛した源頼朝を暗殺しようと転て書門に潜んでいた話を以前紹介した。景清は武勇に優れ、悪七兵衛と呼ばれ、文学や演劇の材料となつた。

奈良市(旧都祁村)上深川に伝わる題目立とい

う語り物芸にも登場するが、ここには門で待ち伏せる話は出てこない。最後は漆を身体に塗り、乞食となつて待ち伏せしたというが、風雪に耐えた大きな黒い柱の淵みと怨念に目を光らせたであろう。景清とは合わなくもない。

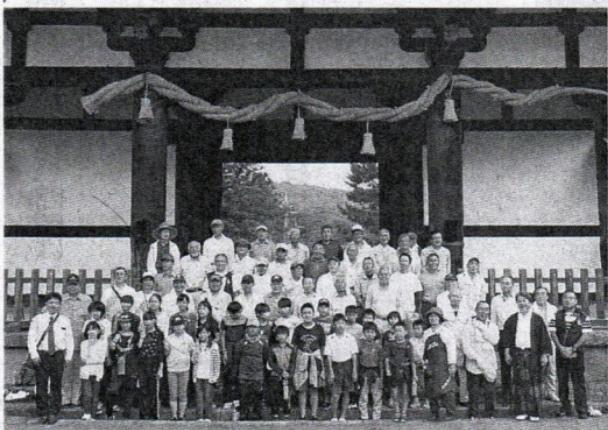
転害門の注連縄作り

奈良市(旧都祁村)上深川に伝わる題目立といふ語り物芸にも登場するが、ここには門で待ち伏せる話は出てこない。最後は漆を身体に塗り、乞食となつて待ち伏せしたという。

23日朝7時半、大門へ

や繩、脱穀機も積んだ軽トラックが到着。クレーン車も現れ、8時すぎに

宇佐小学校の6年生も到



転害門の大注連縄を掛け終えて
記念撮影—奈良市で、筆者提供

表

(奈良民俗文化研究所代
隔週掲載)

ブルーシートの上に、もち藁が運び込まれると、誰が指示するわけでもなく、あちこちで作業が始まった。まず、足踏みが行われた。掛け替えは、手向山八幡宮の氏子の内、川上町と雑司町の農家組合の人々によって4年に一度行われる。通常は川上町の会所前で行われるが、今年は姉妹都市の縁で、九州から宇佐小学校の小学生たちが一緒に作業をすることになり、場所を門の前に移したという。

行くと既に作業着姿の人々が集まり始めていた。藁

トラックが到着。クレー

ン車も現れ、8時すぎに

は古い縄が降ろされた。

12mほどの長さにする。これを3本作る。できあがるとまず2本を擦り合わせ、さらにもう1本を添させていく。11時半ごろ、真新しい大注連縄が門に掛かった。

美しく波打つように何度も手直しをする。見学者も含めて、その場にいた約100人の人が、じつと注連縄を見上げていた。